

定期訪韓団報告⑥

日本の労働運動から
学ぶ韓国の人々

労働者大会の当日、私たち訪韓団が昼食を共にしたのは韓国進歩連帯という市民団体の共同代表、朴ソグン氏と進歩的大学として知られている聖公会大学校社会科学部教授の李ジョング氏でした。朴ソグン氏から中村猛氏に誘いがあり持たれた場でした。聞くところではお二人とも一九七〇年代、学生運動に身を投じ、今日まで大衆運動に大きな役割を果たしてこられた方でした。

87年民衆抗争

日本式労務管理導入

韓国では一九八七年、長年の軍事独裁政権の禁圧を打ち破り労働運動が大高揚しました。民主的労働組合運動が法律で完全に禁じられている時代に多くの労働者が大弾圧に怯むことなく立ち上がり、血を流して闘い、以降の運動の発展



上 左端が朴ソグン氏
その隣が李ジョング氏
右 労働者大会前段集会



の出発点が築かれました。そこで財閥と国家権力にとってこれを阻むことが死活的課題となり、対抗手段として行ったのが、九〇年代初頭からの「日本式労務管理の導入」でした。

日本では一九八九年総評解散・連合結成。労働運動は大きな後退局面に入っていましたから、韓国の支配者は日本から大いに学んだようです。

日本の労働運動の

後退を反面教師に

こうした中、朴ソグン氏は労働運動をサポートし発展させる為に「労働政策研究所」というシンクタンクの立上げを準備。その過程で、韓国の労働運動を日本の労働運動のように後退させない為にそこから教訓を引き出すことを重要なテーマと考えられたようです。日本式労務管理による労働運動破壊をどうしたら克服できるのか？と。

学びの師としたのがソウル大学時代の一年先輩であった李ジョング氏。李ジョング氏は一九八〇

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

年代半ばから九〇年まで
東京大学に留学、「日本
の少数労働組合の異議申
立てについて」という博
士論文を書かれたそうで
す。全金をはじめ戦闘的
に闘う労働者と同じに交
流し、闘争の現場や裁判
傍聴にも足を運びながら
日本の労働運動の研究を
深められたそうです。残
念ながら関西までは来ら
れなかったそうですが：
私的には「東大」と
「闘う少数派労働運動」
という取合わせに何とも
チグハグな感じを受け、
とても驚き、また色々と
考えさせられました。

『日本労働運動の理解』

朴ソグン氏は、李ジョ
ング氏から週に一回、合
計八回の講義を受けまし
た。内容は敗戦直後から
連合結成までの日本労働
運動の歴史。質疑を含め
全てを録音して記録に残
し、一九九二年「日本労
働運動の理解」という本
にまとめて出版されたそ
うです。日本の運動に関
心のある人によく読まれ、
すでに三刷まで出されて
いるそうです。

日本では出版されてお
らず中村猛氏が翻訳を手
がけている最中でした。
それを聞いた李ジョング
氏が「是非会いたい」と

いうことになり、この日
の昼食会となりました。
翻訳本の出版はまだで
すが、きっと様々な教訓
が詰まった内容なのだろ
うと期待しています。

久しぶりに激しいデモ となった労働者大会

昼食後、いよいよ数万
人規模の労働者大会と激
しいデモが闘われたので
すが、私は残念ながら一
足先に帰国、このハイラ
イトの報告はできません。
連載は今回で終わります。

日韓労働者連帯の契機
となったアジアスワニー
の若き女性労働者たちの

日本遠征闘争から二五年。
九月には恒例の訪日団が
来られ十一月には訪韓団
が再び全北とソウルを訪
問、労働者大会に参加し
ます。

関心を持たれた方はぜ
ひ一言かけて下さいネ。

ハンゲルサークル

のぞいてみませんか？

一月に一回位、みなと
合同ケアセンターでベテ
ラン先生を招きハンゲル
サークルもやっています。
家族やお友達、またどん
な動機や目的でも参加大
歓迎です。オソオセヨ！

南労会支部 ○